

ご利用規則

当館ではお客様に快適にお過ごし頂くため、下記の通り利用規則を定めておりますので下記の事項については安全及び衛生の確保を目的としてご遠慮頂きますようお願いいたします。遵守頂けない場合はご宿泊をお断りすることもございますので、予めご了承ください。

1. 喫煙所以外での喫煙
2. 契約人数を超えての客室利用
申出なく契約人数を超えての利用が発覚した場合は、その超過利用分を請求致します。
3. 暖房用、炊事用の火器及び当ホテルの貸出品以外のプレス用のアイロンその他の電化製品の使用
4. ベッド、その他の火災が発生しやすい場所及び当ホテル所定の場所以外での喫煙
5. 放歌高吟等の喧騒行為、異臭放散その他第三者に嫌悪感や迷惑を及ぼしたりする行為
6. 次に定める物品の持ち込みはお断りをさせていただきます。
 - ・動物、鳥類等（盲導犬等を除く。）
 - ・覚醒剤、麻薬類等、法令により所持を禁止されている薬品類
 - ・発火又は引火しやすい火薬や揮発油類及び身体に害を及ぼす危険性のある薬品
 - ・許可証のない銃砲、刀剣類及びこれらの類似品
 - ・著しく多量もしくは重量のある物品
 - ・悪臭を発するもの
 - ・ごみ及び客室の衛生を妨げる物品
 - ・当ホテル内での使用を目的とした電化製品及び調理器具等の物品
 - ・その他当ホテルが客室への持ち込みを禁止することとした物品
 - ・公序良俗に反する行為
 - ・他のお客様にチラシ、ピラその他の広告物を配布する行為
7. 館内の設備及び物品の移動、加工、持ち出し、及び本来の用途以外の目的での使用
8. 客室以外の場所での所持品の放置
9. 客用以外の施設への立ち入り
10. ホテル外からの飲食物の持ち込み
11. 当館の事前の承諾を得ない営利を目的とした活動
12. 客室内での次に定める行為は固く禁止しております。
 - ・外来者との客室での面会
 - ・客室の窓に写真、ポスターを貼付するなどホテルの外観を損なう行為
13. 客室のカードキーを紛失した場合は、実費を申し受けます。

お願い

領収書は、お部屋単位でご用意しております。

同室のお客様が分割領収書をご希望の場合はお早めにお申し付けください。

現金やご貴重品は、お部屋備え付けのセーフティーボックスにお預けください。尚、お荷物等の紛失、盗難などについては責任を負いかねます。また、美術品、骨董品の品物はお預かりできません。

宿泊約款

【第 1 条】適用範囲

1. 当館が宿泊客との間で締結する宿泊契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習によるものとします。
2. 当館が、法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。

【第 2 条】宿泊契約の申込み

1. 当館に宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当館に申し出ていただきます。
 - (1) 宿泊者名
 - (2) 宿泊日及び到着予定時刻
 - (3) 宿泊料金（原則として別表第 1 の基本宿泊料による。）
 - (4) その他当館が必要と認める事項
2. 宿泊客が、宿泊中に前項第 2 号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当館は、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理します。

【第 3 条】宿泊契約の成立等

1. 宿泊契約は、当館が前条の申込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当館が承諾をしなかったことを証明したときは、この限りではありません。
2. 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間の基本宿泊料を限度として当館が定める申込金を、当館が指定する日までに、お支払いいただきます。
3. 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第 6 条及び第 18 条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第 12 条の規定による料金の支払いの際に返還します。
4. 第 2 項の申込金を同項の規定により当館が指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとします。ただし、申込金の支払期日を指定するに当たり、当館がその旨を宿泊客に告知した場合に限ります。

【第 4 条】申込金の支払いを要しないこととする特約

1. 前条第 2 項の規定にかかわらず、当館は、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。
2. 宿泊契約の申込みを承諾するに当たり、当館が前条第 2 項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

【第 5 条】宿泊契約締結の拒否

当館は、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。

1. 宿泊申込みが、この約款によらないとき。
2. 満室（員）により客室の余裕がないとき。
3. 宿泊しようとする者が、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき。
4. 宿泊しようとする者が、伝染病者であると明らかに認められるとき。
5. 宿泊に関し暴力的要求行為が行われ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
6. 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき。
7. 宿泊しようとする者が、泥酔者その他宿泊者に迷惑を及ぼす恐れがあるとき、宿泊中放歌、けん闘、歌舞、音曲等で宿泊客に迷惑を及ぼす言動のあるとき、明らかに支払い能力がないと認められるとき、挙動不審と認められるとき。（京都旅館業法施行条例 7 条）
8. 宿泊しようとする者が暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、団体またはその関係者、その他反社会勢力（以下「暴力団等反社会勢力」という。）である場合。
9. 宿泊しようとする者が暴力団、または暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体である場合。
10. 宿泊しようとする者が法人で、その役員のうち暴力団員に該当するものがあるもの。
11. 宿泊しようとする者が、他の宿泊者に著しい迷惑を及ぼす言動をした場合。

【第 6 条】宿泊客の契約解除権

1. 宿泊客は、当館に申し出て、宿泊契約を解除することができます。
2. 当館は、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合（第 3 条第 2 項の規定により当館が申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます。）は、別表第 2 に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当館が第 4 条第 1 項の特約に応じた場合にあっては、その特約に応じるに当たって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について、当館が宿泊客に告知したときに限ります。
3. 当館は、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後 8 時（あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を 2 時間経過した時刻）になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

【第 7 条】 当館の契約解除権

1. 当館は、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。
 - (1) 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、又は同行者をしたと認められるとき。
 - (2) 宿泊客が伝染病者であると明らかに認められるとき。
 - (3) 宿泊に関し暴力的要求行為が行われ、合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
 - (4) 天災等不可抗力によって起因する事由により宿泊させることができないとき。
 - (5) 宿泊している者が、泥酔者その他宿泊者に迷惑を及ぼす恐れがあるとき、宿泊中放歌、けん闘、歌舞、音曲等で宿泊客に迷惑を及ぼす言動のあるとき、明らかに支払い能力がないと認められるとき、挙動不審と認められるとき。(京都旅館業法施行条例 7 条)
 - (6) 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたずら、その他当館が定める利用規則の禁止事項(火災予防上必要なものに限る。)に従わないとき。
 - (7) 宿泊客が暴力団等反社会勢力に該当すると認められるとき。
 - (8) 宿泊客が暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であると認められるとき。
 - (9) 宿泊客が法人でその役員のうち暴力団員に該当する者があると認められるとき。
 - (10) 他の宿泊者に著しい迷惑を及ぼす言動をした場合。
2. 当館が前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

【第 8 条】 宿泊の登録

1. 宿泊客は、宿泊日当日、当館のフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。
 - (1) 宿泊客の氏名・年令・性別・住所及び職業
 - (2) 外国人にあつては、国籍・旅券番号・入国地及び入国年月日
 - (3) 出発日及び出発予定時刻
 - (4) その他当館が必要と認める事項
2. 宿泊客が第 12 条の料金の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

【第 9 条】 客室の使用時間

宿泊客が当館の客室を使用できる時間は、午後 3 時から翌朝 11 時までとします。ただし、連続して宿泊する場合には、到着日及び出発日を除き、終日使用することができます。

当館は前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じる事があります。

この場合には次に掲げる追加料金を申し受けます。

- (1) 超過 3 時間までは室料金の 30%
- (2) 超過 6 時間までは室料金の 60%
- (3) 超過 6 時間以上は室料金の 100%

【第 10 条】 利用規則の遵守

宿泊客は、当館内においては、当館が定めて館内に掲示した利用規則に従っていただきます。

【第 11 条】 営業時間

当館の主な施設等の営業時間、及び、その他の施設等の詳しい営業時間は、客室のインフォメーション等でご案内いたします。

【第 12 条】 料金の支払い

1. 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳は、別表第 1 に掲げるところによります。
2. 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨又は当館が認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等これに代わり得る方法により、宿泊客の出発の際又は当館が請求した時、フロントにおいて行っていただきます。
3. 当館が宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けます。

【第 13 条】 当館の責任

1. 当館は、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり、又はそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。ただし、それが当館の責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。
2. 当館は、防災につとめておりますが、万一の火災等に対処するため、旅館賠償責任保険に加入しております。

【第 14 条】 契約した客室の提供ができないときの取扱い

1. 当館は、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設をあっ旋するものとします。
2. 当館は、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設のあっ旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当館の責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

【第 15 条】 寄託物等の取扱い

1. 宿泊客がフロントにお預けになった物品又は現金並びに貴重品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが不可抗力である場合を除き、当館は、その損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、当館がその種類及び価額の申告を求めた場合であって、宿泊客がそれを行わなかったときは、当館は 15 万円を限度としてその損害を賠償します。
2. 宿泊客が、当館内にお持込みになった物品又は現金並びに貴重品であってフロントにお預けにならなかったものについては、当館の故意又は過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当館はその損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の申告のなかったものについては、15 万円を限度として当館はその損害を賠償します。

【第 16 条】 宿泊客の手荷物又は携帯品の保管

1. 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当館に到着した場合は、その到着前に当館が了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際お渡しします。
2. 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品が当館に置き忘れられていた場合において、その所有者が判明したときは、当館は、当該所有者に連絡をするとともにその指示を求めるものとします。ただし、所有者の指示がない場合又は所有者が判明しないときは、発見日を含め 7 日間保管し、その後最寄りの警察署に届けます。
3. 前 2 項の場合における宿泊客の手荷物又は携帯品の保管についての当館の責任は、第 1 項の場合にあっては前条第 1 項の規定に、前項の場合にあっては同条第 2 項の規定に準じるものとします。

【第 17 条】 駐車場の責任

宿泊客が当館の駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当館は場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理に当たり、当館の故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

【第 18 条】 宿泊客の責任

宿泊客の故意又は過失により当館が損害を被ったときは、当該宿泊客は当館に対し、その損害を賠償していただきます。

【別表第 1】 宿泊料金の算定方法（第 2 条第 1 項及び第 12 条第 1 項関係）

	内訳	
宿泊客が支払うべき総額	宿泊料金	①基本宿泊料 (室料または室料+飲食料)
	追加料金	②飲食料 (①に含まれるものを除く) 及びその他の利用料金 ③サービス料 (②×10%)
	税金	④消費税、⑤京都市宿泊税

1. 基本宿泊料金はフロントと客室に掲示する料金表になります。
2. 当館では、寝具及び食事を提供しない幼児については、料金をいたしません。
3. エキストラベッドは、別途頂戴します。
4. 税法が改正された場合は、その改正された規定によるものとします。

【別表第 2】 違約金（第 6 条第 2 項関係）

利用客室数	取消の通知を受けた日			
	7 日前～3 日前	2 日前	1 日前	当日・不泊 (連絡なし)
1～4 室利用	20%	50%	80%	100%
	60 日前～31 日前		30 日前～当日・不泊 (連絡なし)	
5 室以上利用	50%		100%	

1. 数字は、宿泊料金に対する違約金の比率です。
2. 予約日数の変更 (短縮) をする場合は、その短縮日数にかかわらず、1 日分 (初日) の違約金を収受します。